

2020  
DEC  
特別号

# NewsLetter

自治医科大学 地域医療オープン・ラボ

## ジェンダー分析的視座から見るHPVワクチンのもう一つの問題 HPVワクチンの定期接種の対象は「少女たち」だけでよいのか？

自治医科大学総合教育部門倫理学研究室の渡部麻衣子講師は、HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンの定期接種についてジェンダー分析的視座から考察し、当該ワクチン接種の女性化を示唆する論考を発表しました。この論文は『現代思想』の特集「ワクチンを考える」に掲載されました。

論文：渡部麻衣子（2020）ジェンダー分析的視座から見るHPVワクチンのもう一つの問題——HPVワクチンの定期接種の対象は「少女たち」だけでよいのか？ 現代思想

[<http://www.seidosha.co.jp/book/index.php?id=3494>]

### Q1. HPVワクチンとは？

HPVワクチンは、子宮頸がん等の原因となるHPVへの感染を予防するワクチンです。HPVには180種類以上の型がありますが、現在承認されているのは、そのうちの2種類を対象とした2価、4種類を対象とした4価、そして9種類を対象とした9価のワクチンです。

### Q2. 今回の研究をなぜ始めたのですか？

今回は、『現代思想』の編集者より「ジェンダーの視点からワクチンを論じてほしい」と依頼を受けはじめました。数年前に参加していた、明治学院大学で、日本の女性の妊娠出産経験の変容を社会的視点から長年研究されている、柘植あずみ先生主催の研究会を通じてお声かけ頂きました。これまで出生前検査を研究の対象としてきましたので、「ジェンダー」は常に重要な観点ではありましたが、ジェンダー分析的視座から性染色体研究の歴史を記した書籍（注）を訳したということも、この観点で分析する上で役立ちました。実は、「ジェンダー分析」は私のメインの研究領域ではないのですが、こうした経緯もありましたので、「ジェンダーとワクチン」というテーマが興味深く、お引き受けしました。

### Q3. 今回どのような研究成果が得られたのですか？

HPVを原因とする主な疾患が子宮頸がんである、ということのために、HPVワクチンの定期接種の対象は女子に限定されてきました。これは、「ワクチンの女性化」と呼ばれています。この「ワクチンの女性化」の妥当性を「ジェンダー分析的視座」に基づいて検証した結果、HPVの感染経路を断つことをワクチン接種の目的とするならば、女子も男子も、HPVワクチンの定期接種の対象にすべき、という結論が得られました。ジェンダー分析的視座は、社会的な事象に性別（とそれに基づく社会規範）がどのように関係しているかを考察するための切り口です。この切り口から、まだまだ日本では議論となっていない論点を示すことができたことが、成果です。

### Q4. 今後の研究は？

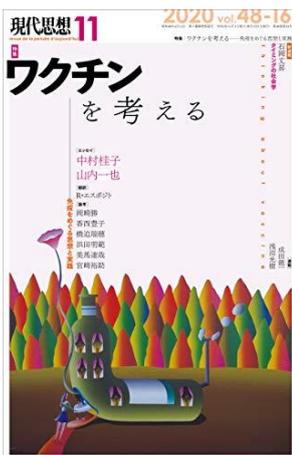
「ジェンダー分析」は私のメインの研究領域ではありません。メインでは、科学技術と社会の関係性を分析する「科学技術社会論」の立場から、技術が人の死生観をどのように構成しているのかを分析する研究をしています。これまでは、特に、出生前検査（特に超音波検査）が胎児の道徳的位置付けをどのように変容させてきたのかを研究してきました。現在、この研究は、科研費の研究活動スタート支援

で、産科学講座の高橋宏典先生のご協力の下続けております。同時にこれからは、この研究を通して得られた「技術構成主義」という観点を、現在、国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）からの助成金で、学内では総合教育部門の高瀬堅吉先生、田中大介先生、小野純一先生、解剖学講座の野田泰子先生のご協力も得て行なっている超領域的な研究プロジェクトで発展させたいと考えています。

(注) 渡部麻衣子訳『性そのもの - ヒトゲノム研究における男性と女性の探索』 法政大学出版局, 2018. (Sarah S. Richardson *Sex Itself: The Search for Male & Female in the Human Genome*. The University of Chicago Press, 2013) ISBN: 4588010840

【連絡先】倫理学研究室 渡部麻衣子

e-mail : wtnbmk@jichi.ac.jp HP : <https://www.jichi.ac.jp/bioethics/>



【発行】

自治医科大学大学院医学研究科広報委員会  
自治医科大学地域医療オープン・ラボ